

ノアの爽風かぜ



お花見



おやつバイキング



~目次~

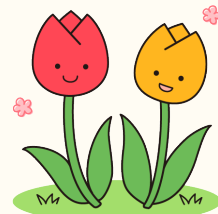
- 病院短信『こころの中の鏡』 長山 あや
- 看護日誌 宇津木 晴夏
- 作業療法科だより 松本 賢治
- 日常の一コマ 清水 直美
- 今月のナナ 『ナナの成長記録後編』

4月の予定



◆誕生日会 各病棟にて

- 1病棟: 12日(水) 14:30~
- 2病棟: 13日(木) 14:00~
- 3病棟: 14日(金) 14:00~



今月のナナ

元気いっぱいナナも1歳6か月に
なりました♥
2回目の花見で〜す(*^v^*)
綺麗だな〜(*^~^*)



『こころの中の鏡』

本格的な春らしい陽気になり、春の陽射しが心地よく感じる事と思います。院庭にも色とりどりの花が咲き始めています。患者さんにも春が来たと感じてもらえるように、散歩などを行いたいと思います。

長く続く新型コロナウイルスの感染に対する不安や緊張感からこころが揺れ動く人も多いと思います。こんな時こそ自分を磨くことが必要ではないかと感じます。自分磨きとは、なりたいた自分を目指して努力することです。どんなことでも少しずつコツコツと積み重ねていけば目標に近づき自信を持てるようになります。その自信がこころの余裕につながります。余裕があればこころの中の鏡も曇ることなく物事を清く澄んで感得できるのではないかと思えます。

他人は自分を映す鏡といいますが、鏡に自分の姿を映してただすように、他人の言動は自身をただすのに手本になるという意味だそうです。相手が不機嫌に見えたら相手も自分に対しそう思っているのかもしれない。自分自身を磨いてどんな時でも人のせいにしない事を心がけていますが、こころの中の鏡が曇り歪んで見える時もあり反省しています。

患者さんとの間にも鏡があります。強く対応すれば強く反応し、優しく対応すれば穏やかに反応してくれます。私たちは患者さんの行動をたしなめたり、非難してはいけません。人としての尊厳や自尊心を傷つけるような事のないようケアしていきたいと思えます。



日常のーコマ

今月は2病棟のミツさん（83歳）のーコマです。ミツさんは福島県で5人姉妹の3番目に生まれました。学校卒業後仕事に就き、よく働いたそうです。27歳で結婚し2人のお子さんに恵まれ、その後離婚。35歳の時に再婚され4人の母親となり、子供達の弁当作りや編物、工場での仕事など、いつ寝ているのか分からないくらい、とにかく働き者のミツさんでした。時は過ぎ平成29年ミツさん77歳、喜寿のお祝いのために上京されて、子供の家に泊まった時の話です。度々、物が無くなったと騒ぎだし、本人の思い込みで家族を混乱させてしまいました。その後、ご家族の指示もありホームヘルパーの利用などで生活されていましたが、パーキンソン病の夫の薬を勝手に中止したり、ミツさん自身の薬も飲まなくなりました。また、家事をすることも困難になりはじめました。令和2年頃からミツさんは夫の介護や田舎での生活が大変だと訴えはじめ、東京に住む娘さんのマンションの下の階に転居したのですが、帰宅願望が強くなり、徘徊も始まるようになり、ある日ミツさんは1人でタクシーに乗り福島に帰ってしまいました。そのようなことがあったためご家族は老健入所の手続きをしましたが、ミツさんの症状と興奮は収まらず、入所を断念せざるを得ませんでした。そして、令和4年6月に当院に相談にみえ、アルツハイマー型認知症と診断されて入院となりました。ご入院当初は不穏・帰宅願望が強く床に座り込んでしまうことも度々でした。そして元気をなくし、毎日のように泣いていました。スタッフはミツさんの気持ちを汲み取り、寄り添う時間を長くして、ご家族の話などを色々と話をしました。また、少しずつほかの患者さん達とも話をするようになり、お友達も出来たようです。その結果、徐々に落ち着きを取り戻し、昨年の秋には院庭で一緒に柿を取り病棟で食べた事や、作業療法の先生と一緒に芋掘りや畑作業を行ったその喜びを話してくれます。現在は得意の編物に夢中でマフラーや帽子、バッグなどを作っています。時々「お父さんが心配」と不安な顔をする事もありますが、部屋の窓から院庭の桜を眺め、自分のペースで入院生活を楽しんでいらっやいます。



2病棟 介護主任 清水 直美

作業療法科だより

作業療法士 松本 賢治

日差しが心地よい季節になってきました。2病棟OT活動では、3月上旬にお好み焼き作りの会を開催しました。久しぶりの調理活動に気持ちも弾み、笑顔が溢れます。全員で協力して作業を分担し、キャベツやネギ、紅ショウガなどを細かく包丁で切り、お好み焼きミックスに混ぜ、豚肉を乗せて焼きました。それぞれの家庭で



お好み焼きの焼き方があるようで、蓋をして蒸す方や焦げ目がつくまでしっかり焼く方がおり、こだわりを言い合っている場面が楽しそうでした。甘酸っぱいタレを付けて、青のりと鰹節をたっぷり載せたら出来上がり！食べる手が止まりません。あっという間に食べて無くなり、2回目のお好み焼き作りの始まりです。食欲の春が到来したようです。



看護日誌

1病棟 看護師 宇津木 晴夏

川越セントノア病院に入職して8ヶ月が経ちました。まだまだ知識や技術が未熟と感じる日々ですが、先輩方の指導や患者さんの笑顔に支えられ業務に励んでいます。コロナ流行から3年。今年の3月13日からマスク着用は個人の判断が基本となります。高齢者など重症化リスクの高い医療機関ではマスクを推奨していますが、日常生活では少しずつ今までの生活に戻れる事を願っています。4月に入り暖かい日も増え、季節の変わり目でもあるため健康管理に気を付けながら過ごしていきたいです。